

全国子どもアンケート  
みんなの今を教えて  
～子どもの権利、知ってる？～  
調査結果ダイジェスト版

2023年12月7日  
広げよう！子どもの権利条約キャンペーン  
子どもメガホンプロジェクト



# 目次

- 1.子どもメガホンプロジェクト概要
- 2.調査概要
- 3.調査結果
- 4.結果まとめ

# 子どもメガホンプロジェクト概要

子どもメガホン  
プロジェクト  
とは

日本の子どもたちが抱えている課題や子どもの権利・子どもの権利条約について学び、自分たちの身の回りでおかしいなと思うこと、子どもたちをとりまく問題を国や社会に伝えてみたい、という思いを持った、19人の子どもたちが(10～18歳)、全国からオンラインで集まり、2023年5月から活動している。

## 活動内容

～2023年4月	子どもメンバー募集・選考 全国の小学校5年生～高校3年生までの19名参加
5月	子どもメンバー活動開始 自己紹介・活動紹介
6月	<b>子どもの権利・総括所見について学ぶ</b>
7月	総括所見等を踏まえ、子どもの権利に関わる問題で特に聞きたいテーマを子どもメンバーが考える
8月～9月	4つのテーマごとのチーム(子どもの意見表明、学校生活、教育格差、子どもの心と体の健康)に分かれ、 <b>子どもメンバーがアンケートの質問を作成</b> (スクリーニング・子どもの権利パートは大人が作成)
2023年9月15日～10月11日	アンケート調査期間 調査会社を通じての回収(500サンプル)に加え、 <b>子どもメンバーの学校や周囲への呼びかけ、おとなメンバーの関連団体などへの呼びかけで計1410人の子どもからの回答が集まる</b>
10月～11月	アンケートの結果を見て、政策決定者に伝えたいことを考える
12月7日	院内集会にて発表
～3月	アンケート結果は国連子どもの権利委員会へのレポートにも活用予定



# 調査概要

## 目的

本調査は、「広げよう！子どもの権利条約キャンペーン」が実施する「子どもメガホンプロジェクト」の活動の一環として実施された。調査の目的は下記の2点。

1. 日本政府が子どもの権利条約を守っているかについて、日本の子どもたちが感じている/抱えている子どもの課題について、子どもたちの声を直接聴くことで現状を把握すること
2. 子どもたちから寄せられた結果を政策決定者(国会議員や行政職員など)や国連子どもの権利委員会に届け、その後の具体的な政策の変化に繋げること

## 対象

日本在住の10～18歳

## 実施期間

2023年9月15日～10月11日 調査会社による調査:2023年9月15日～9月19日

## 方法

- ①クロスマーケティング社提携先15～18才の会員による回答
  - ②インターネット調査ツール「QiQUMO」のアンケートフォームを用いた、一般の対象者に対するウェブアンケート
- ※①②ともに質問内容・順番については統一

※回答結果の構成比は、小数点以下第1位を四捨五入しています  
※本報告書はダイジェスト版として、自由記述の回答を一部抜粋して掲載していますが、後日キャンペーンHPなどで全回答を掲載予定です

## 有効回答数

1410人

## 調査主体

広げよう！子どもの権利条約キャンペーン 子どもメガホンプロジェクト

## 実施協力

株式会社クロス・マーケティング



# 設問一覧

子どもの意見表明、学校生活、教育格差、子どもの心と体の健康の質問については、子どもメンバーが設問を作成しました  
(スクリーニング・子どもの権利は大人が作成)

## 【スクリーニング】

1. あなたの年齢を教えてください。
2. あなたが住んでいる場所を教えてください。
3. あなたの性別について教えてください。一番近いと思うものを、1つだけ選んでください。

## 【子どもの権利】

1. あなたは、子どもの権利を知っていますか？ ※子どもの権利とは:すべての子どもたちが健やかに、自分らしく育つために必要な「当たり前のこと」です。そして、子どもたちの権利を守るための世界共通の約束ごとが、子どもの権利条約です。
2. 子どもの権利を守るために、地域の子どもたちのために働き、なやみを聞いて問題をいっしょに解決してくれる人を「オンブズパーソン」とか「コミッショナー」といいます。あなたのまちにも、このようなおとながいたらいいと思いますか。
3. 子どもの権利や子ども政策は、子どもにとって大切ですが、子どもたちにはよく知られていません。より多くの子どもたちが興味を持てるようなアイデアを教えてください。(自由記述)※子ども政策:政府が行う子どもに関する取り組みの計画や方向のこと
4. 子どもに関する政府の取り組みの中で、特にお金を使ってほしいことはどれですか？下の選択肢から、3つまでこたえてください。

# 設問一覧

子どもの意見表明、学校生活、教育格差、子どもの心と体の健康の質問については、子どもメンバーが設問を作成しました  
(スクリーニング・子どもの権利は大人が作成)

## 【子どもの意見表明】

1. 悩みを相談したり、助けを求めたりする方法について質問します。自分にかかわることについて、悩みを相談したり、助けを求めたりする方法を知っていますか。また、それを使おうと思ったこと、使ったことはありますか。
2. 悩みを相談したり、助けを求めたりする方法について質問します。自分にかかわることについて、どのような方法や相手だったら、気軽に悩みを相談できますか(例:電話、手紙、カウンセラー、家族など)
3. 議員・学校の先生など、おとなに自分の意見を伝えることについて質問します。議員・学校の先生など、おとなに何か伝えたいことはありますか。また、それをおとなに伝えたことはありますか。
4. 議員・学校の先生など、おとなに自分の意見を伝えることについて質問します。どのような方法だったら気軽に議員や学校の先生など、おとなに意見を伝えることができますか。

## 【学校生活】

1. 学校生活で勉強以外のこまったことを、相談したい信頼できる人はだれですか？
2. 学校で少しでも心配だ、安心できないと感じることはなんですか？
3. 2の安心できないことが、どう変わってほしいですか？
4. 学校生活の中で変わってほしいところを見つけた時、学校に伝えますか？

# 設問一覧

子どもの意見表明、学校生活、教育格差、子どもの心と体の健康の質問については、子どもメンバーが設問を作成しました  
(スクリーニング・子どもの権利は大人が作成)

## 【教育格差】

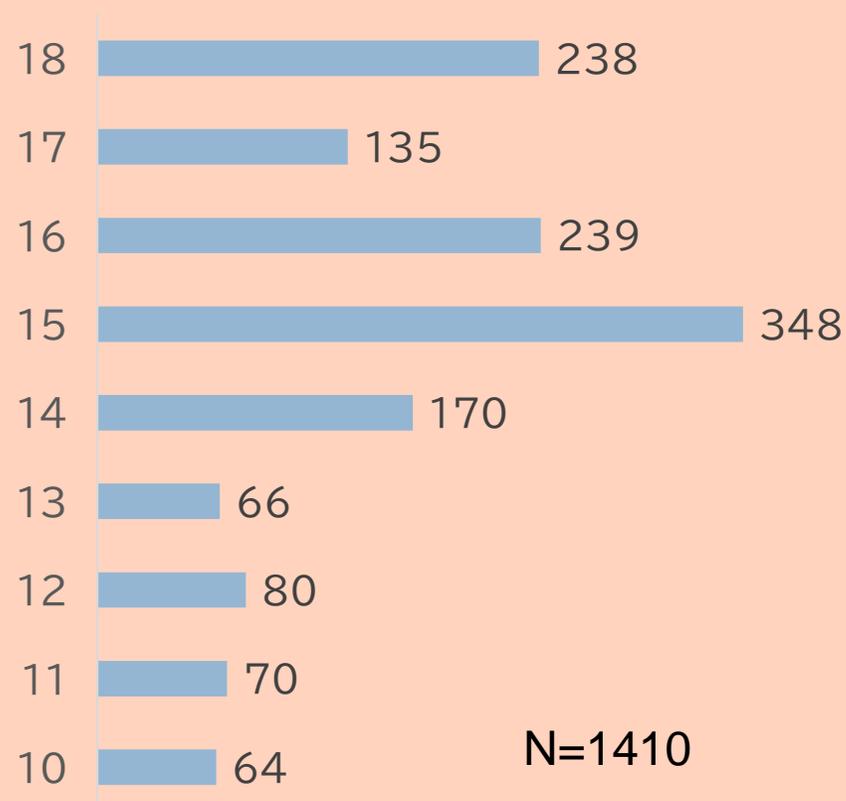
1. 家庭環境や住んでいる地域によって、学べる内容など教育に違いがあって格差を感じることはありますか？
2. あなたが、あなたの学校の教育で学んだことは、自分の将来に活かせると思いますか？
3. 教育格差を感じた瞬間について、具体的に教えてください。また、その教育格差はどのようにすれば解決できると思いますか？
4. 今までに、学校や家庭などで心理的、身体的あるいは性的な虐待(ぎゃくたい)を受けたことで、勉強に集中できず、学ぶ意欲(いよく)がなくなってしまう経験をしたことはありましたか？ ※虐待とは:親や身近なおとくに暴力をふるわれたり、いやなことを言われたり、性的にいやなことをされたりして、心や体を傷つけられること

## 【子どもの心と体の健康】

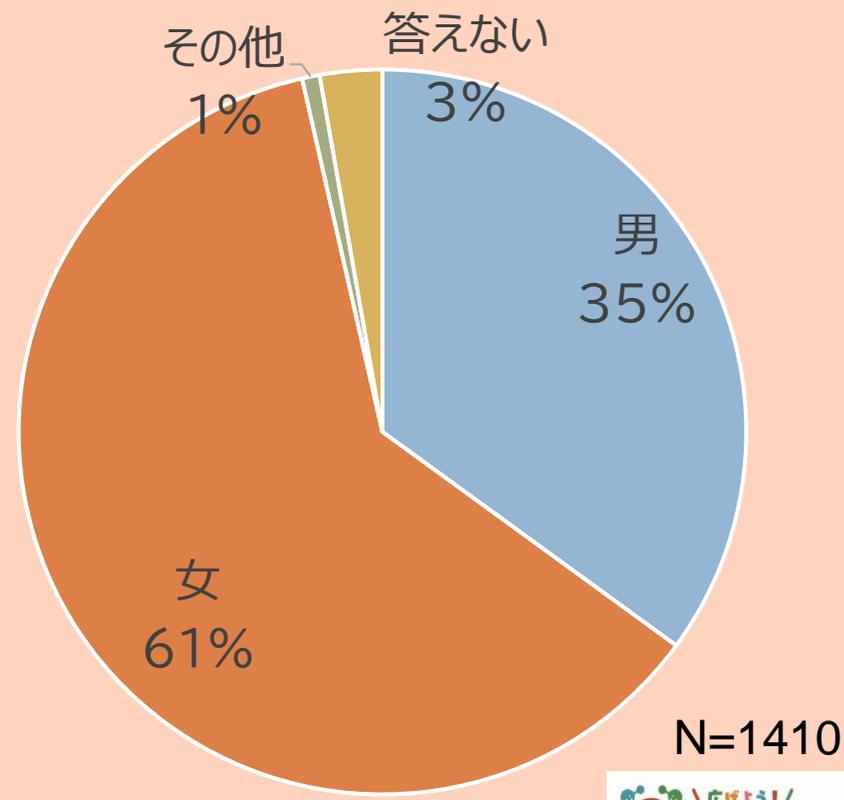
1. 子どもの心と体の健康について、あなたが今のおとな・社会に対して感じていることを教えてください。
2. 子どもの心と体の健康について今、日本の政治家に解決してほしいと思う社会問題を選んでください。
3. 質問18で回答した内容について質問です。その社会問題はあなたにとって身近に感じていることですか？
4. 質問18で回答した社会問題について、子どもの意見を聴きながら子どもとおとなが一緒になって解決していったほうがいいと思いますか。

# 基礎データ：年齢層、性別および居住地

## 年齢

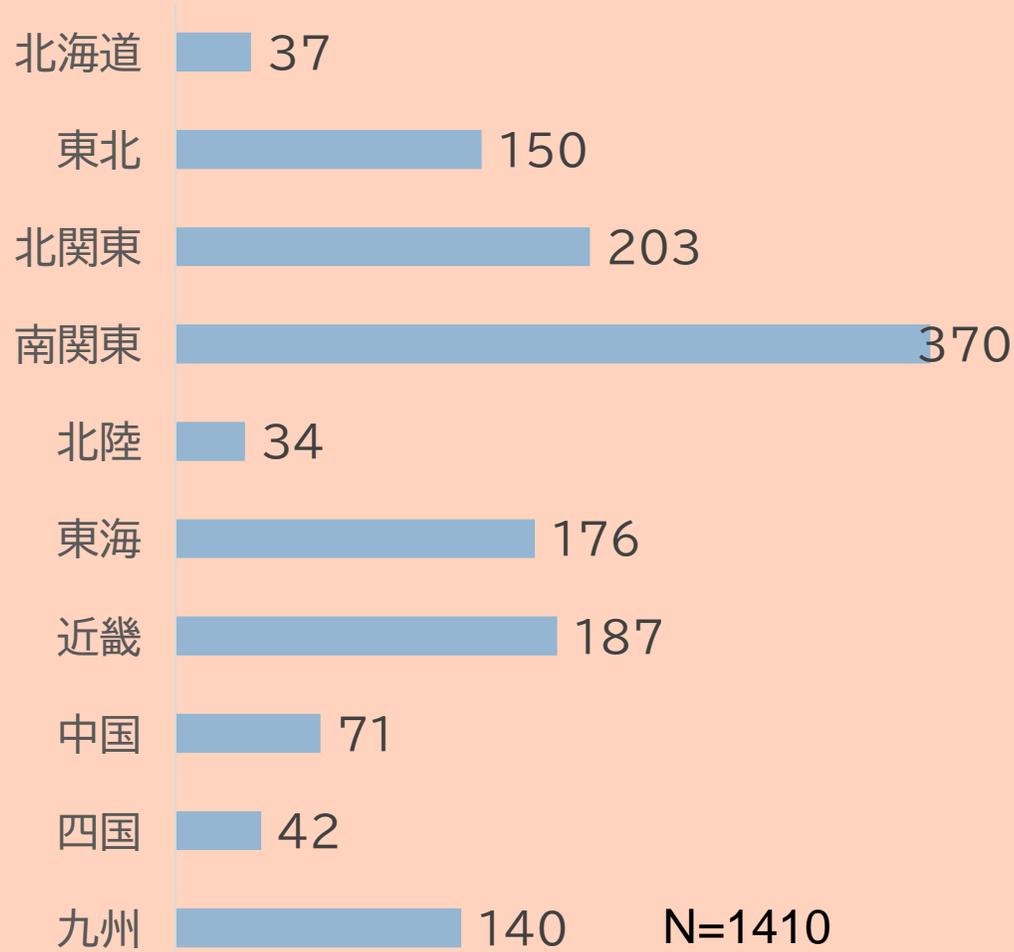


## 性別

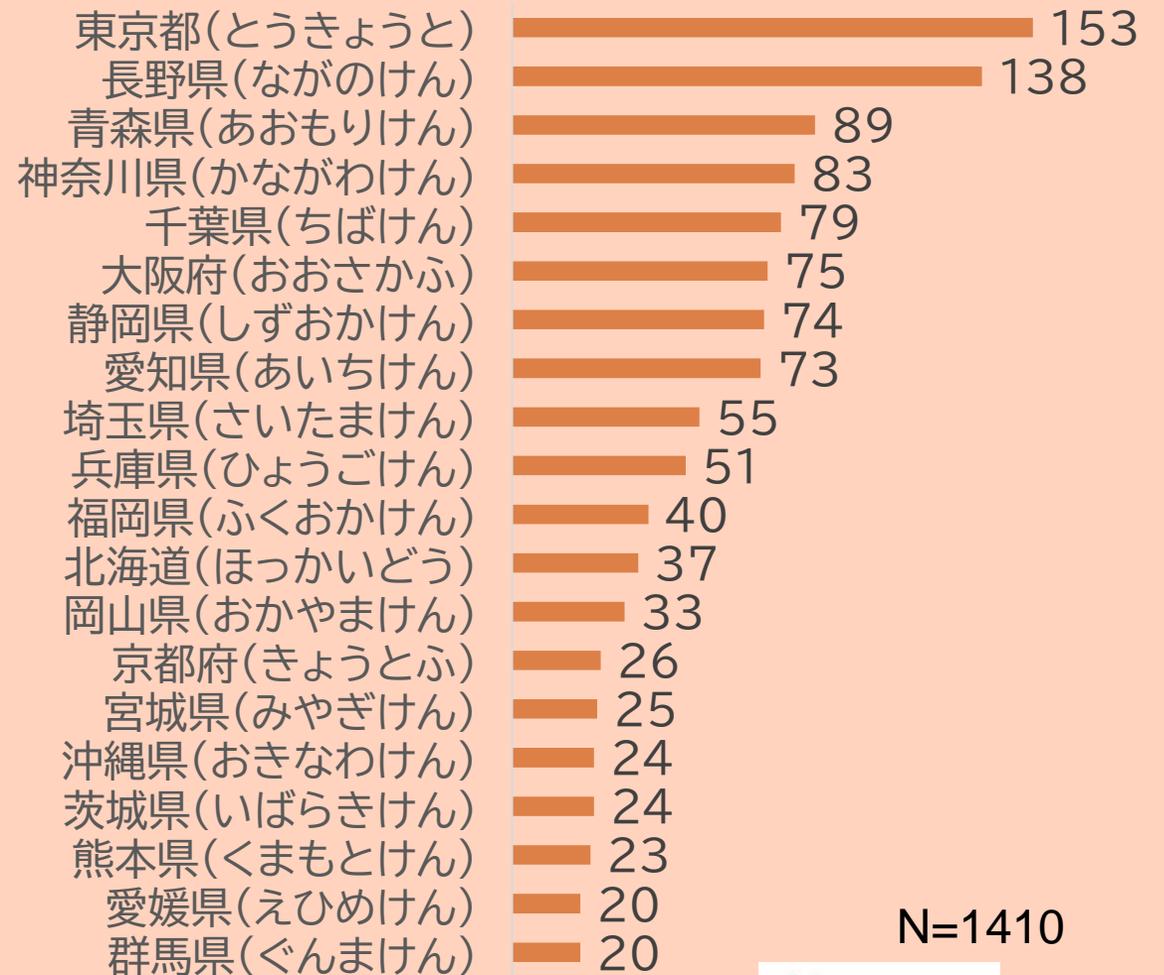


# 居住地

## エリア別



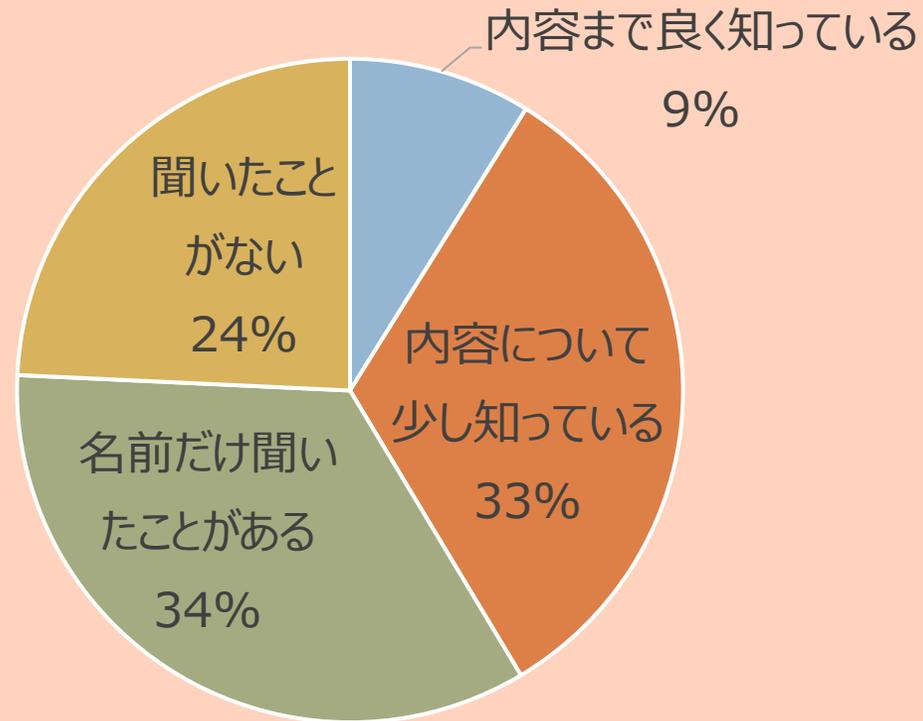
## 都道府県別(上位20)



## ■調査結果:子どもの権利について

子どもの権利の内容について知っているのは約4割の子どもだけ  
聞いたことがない子どもも24%いる

Q1 あなたは、子どもの権利を知っていますか？(単数回答)



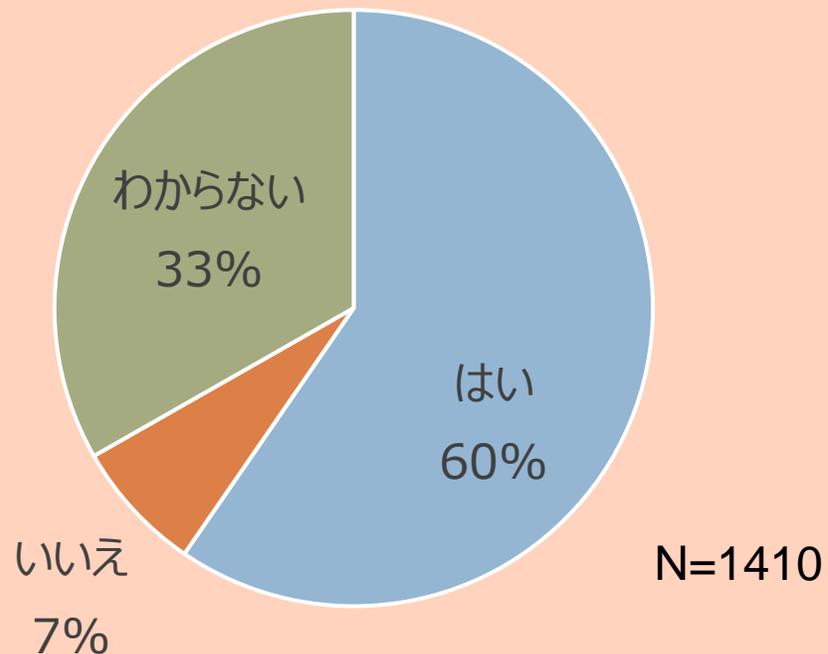
N=1410

## ■調査結果:子どもの権利について

**「オンブズパーソン」や「コミッショナー」を希望する子どもが約6割**

わからないという子どもも約3割

Q2 子どもの権利を守るために、地域(ちいき)の子どもたちのために働き、なやみを聞いて問題をいっしょに解決してくれる人を「オンブズパーソン」とか「コミッショナー」といいます。あなたのまちにも、このようなおとながいたらいいと思いますか。(単数回答)



## ■調査結果:子どもの権利について

子どもに関する政府の取り組みの中で、特にお金を使ってほしいことは、  
**「学校にかかるお金の無償化」が最多**

Q3 子どもに関する政府の取り組みの中で、特にお金を使ってほしいことはどれですか？  
下の選択肢(せんたくし)から、3つまでこたえてください。(複数回答)

	回答数
学校にかかるお金を無料にする(教材費や給食費、修学旅行代など)	614
お金が無くて三食ご飯を食べられない子どもたちなど、子どもへの食事の支援	424
虐待(ぎゃくたい:親や身近なおとなに暴力をふるわれたり、いやなことを言われたり、性的にいやなことをされること)の予防や対策	352
部活動や習い事、塾などへの支援	314
ひとり親支援(お金の支援、ひとり親向けの相談窓口の設置、子どもの学習支援など)	291
児童手当(子育てのために父母や子どもを育てる人に払われるお金)を増やすこと	276
いじめや差別をなくすための教育をしたり、いじめや差別などで悩んでいる子どもへの支援をすること	269
ヤングケアラー(病気や障害がある家族や、おさないきょうだいの面倒を見ることで、心や体が苦しくなったり、勉強などに遅れが出る子ども)である子どもの支援	218
犯罪から子どもを守るなど、子どもの見守り体制の強化	184
子ども食堂や地域のフリースペースなど、家や学校以外でも子どもが時間を過ごせる居場所づくり	170
子どもたちとその家族が暮らしやすい家の環境の整備(家賃の補助や、公営住宅に優先的に入れるなど)	151
障害のある子どもの支援や障害のない子どもと一緒に勉強したり過ごせる環境(かんきょう)づくり	132
子どもの意見を、地域のおとなや日本の政府に届けるための仕組みづくり	131
どれも当てはまらない	68
わからない	62
子どもの権利条約など、おとなと子どもが人権について知れるような活動をもっと行う	48
答えたくない	22
その他	10

■調査結果:子どもの権利について  
子どもの権利や子ども政策について、

**「学校の授業で学ぶ機会が欲しい」という声が特に多く寄せられた**

Q4 子どもの権利や子ども政策(せいさく)は、子どもにとって大切ですが、子どもたちにはよく知られていません。より多くの子どもたちが興味を持てるようなアイデアを教えてください。(自由回答)

※子ども政策:政府が行う子どもに関する取り組みの計画や方向のこと

※自由回答から一部抜粋

学校で子どもの権利について、**みんなで考える授業**をもっとやって欲しい(千葉県・12才)

**学校の道徳時間**などを使ったり、**朝礼**などで校長先生やスタッフさんが新学期始まる時に**分かりやすく砕いて話をすると**小さい子でもわかりやすいのではないかと思います。(東京都・17才)

**政策による効果が出ていると実感**すれば興味を持つと思う。(兵庫県・17才)

**ポスターとか、動画配信サイト**とかの子どもたちが目に入るところで宣伝する(青森県・14才)

テレビなどではなく、**tiktokやyoutube**などの子供がたくさん見るようなサイトで、**人気のキャラクター**等が**子供の苦しいところ**を理解しながら**宣伝をする**といいと思います。子供を理解した口調で話すと、子供はわかってくれているんだとおもい、引き込まれます。(長野県・14才)

■調査結果:子どもの意見表明について  
悩みを相談したり助けを求めたりする方法として、  
家族などの信頼できる仲が良い相手が、  
SNSなどの匿名で第三者に相談できる方法が良いとの意見が多かった

Q5 悩みを相談したり、助けを求めたりする方法について質問します。自分にかかわることについて、どのような方法や相手だったら、気軽に悩みを相談できますか  
(例:電話、手紙、カウンセラー、家族など)(自由回答)

<特に多かった回答>

家族(親、きょうだいなど)

SNS(主にLINE、SNSのメッセージ、DM、チャット機能など)

友達・カウンセラー・電話・先生・手紙・メール

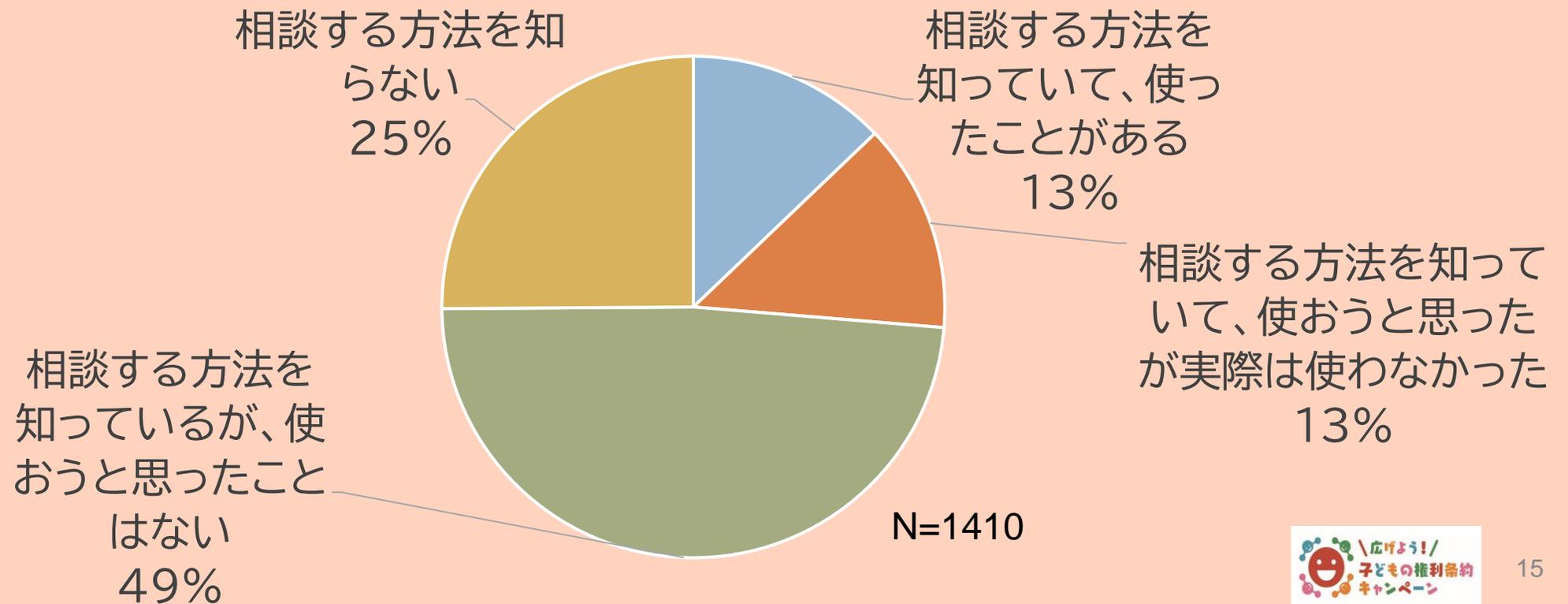
わからない・相談しない・できない

<特に多く見られた意見>

- ・匿名で、第三者に相談できる方法が良い
- ・信頼できる・信用できる相手には相談しやすい
- ・気軽に相談できる方法が良い
- ・仲がいい相手になら相談できる

■調査結果:子どもの意見表明について  
悩みを相談したり、助けを求めたりする方法について、  
**「知っているが使おうと思ったことはない」子どもが約半数**

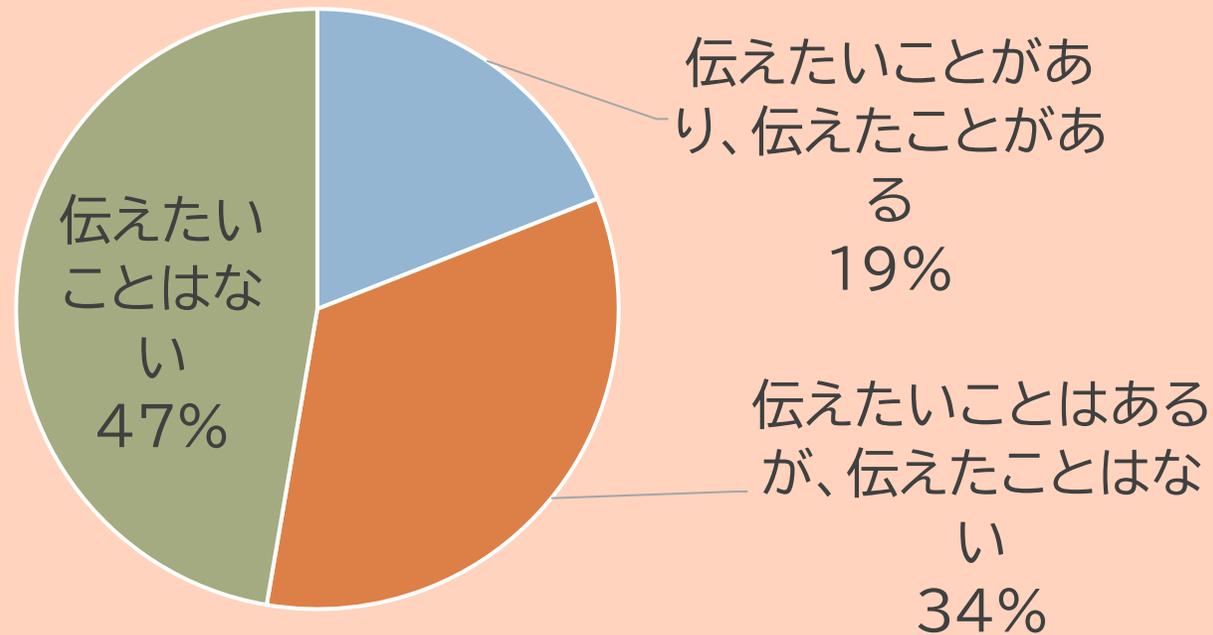
Q6 悩み(なやみ)を相談したり、助けを求めたりする方法について質問します。自分にかかわることについて、悩みを相談したり、助けを求めたりする方法を知っていますか。また、それを使おうと思ったこと、使ったことはありますか。(単数回答)



## ■調査結果:子どもの意見表明について

議員・学校の先生などのおとなに「伝えたいことはない」子どもが約半数

Q7 議員・学校の先生など、おとなに自分の意見を伝えることについて質問します。議員・学校の先生など、おとなに何か伝えたいことはありますか。また、それをおとなに伝えたことはありますか。(単数回答)



N=1410

## ■調査結果:子どもの意見表明について

おとなに意見を伝えやすい方法としては、「アンケート」・「LINE」が最多  
「直接話す」も多く、SNSは少なかった

Q8 議員・学校の先生など、おとなに自分の意見を伝えることについて質問します。どのような方法だったら気軽に議員や学校の先生など、おとなに意見を伝えることができますか。(複数回答)

	2571
3 アンケート	589
4 LINE	531
8 直接話す	426
2 手紙	276
7 学校の端末(たんまつ)	227
1 電話	165
5 インスタグラム	147
6 X(ツイッター)	140
9 その他	70

<その他で多かった意見>

・話せない・話したくない

(例:どんな方法でもできない

おとなを信用できない

圧力があるから無理

どんな方法でも怖い)

・匿名の方法がいい

・直接会話をしない方法がいい

・学校のことなので学校以外の窓口がいい

## ■調査結果:学校生活について

**学校生活の困りごとを相談したい信頼できる人は「友達」が最多**

次いで「家族」、「クラスの担当の先生」などの身近なおとな  
「弁護士」も4番目に多かった

Q9 学校生活での勉強以外の困った(こまった)ことを、相談したい信頼(しんらい)できる人はだれですか？(複数回答)

	2581
友達	713
家族	590
クラスの担当(たんとう)の先生	341
弁護士	307
クラスの担当以外の先生	167
保健室の先生	122
スクールカウンセラー	88
校長先生・教頭先生	83
いない	72
子どものことに詳しい団体や専門家(せんもんか)	57
その他	41

<その他で多かった意見>

昔担任だった先生

塾の先生

仲のいい先輩

恋人

精神科の先生

ネットの友だち

■調査結果:学校生活について

**学校で心配・安心できないと感じることは「友達との関係性」が最多**

次いで、「身だしなみに関する学校のルール」

「先生との関係性」「クラスの雰囲気」など、人間関係に関することも多かった

Q10 学校で少しでも心配だ、安心できないと感じることはなんですか？(複数回答)

	2386
友達との関係性	400
身だしなみに関する学校のルール	372
先生との関係性	331
クラスの雰囲気	303
なし	262
学校の雰囲気(ふんいき)	208
学校施設(しせつ)の環境(かんきょう)・設備	196
生活に関する学校のルール	204
その他	110

<その他で多かった意見>

部活動

勉強

進路

いじめ

授業料・学費

先生との関係性

## ■調査結果:学校生活について

### 校則について、納得ができるように変わってほしいという意見が多数

Q11 Q10の安心できないことが、どう変わってほしいですか？(自由回答)※自由回答から一部抜粋

	カテゴリー	主な内容
学校のルール・先生との関係性などについて	校則の変更について	安心して学校生活を送れるようにしてほしい髪型など細かいルールを変えてほしい いつまでも昔のルールに縛られず、常に変わっていった方が良くと思う
	大人への期待	大人がまず変わって欲しい。対等に話せる環境づくりが必要 学校のルールは大切な事だと思いますが、それより子供たちをもっと大切にして欲しいです。
	校則の理由について	何で守らないといけないのか、理由を聞いても答えられない大人が多いのが嫌。納得する理由を教えてくださいたら守るのに。 校則に関して子どもたちが納得行くような説明をし、子どもたちの納得行かない意見に耳を傾けて意見に対しての理由を話すなどちゃんと説明をし、意味がない校則はなくしてほしい。
	生徒の意見について	もちろんモラルは守りますが、きちんと時代に合わせつつ、理由が明確でお互いに納得のできる校則にしてほしい。また、管理職の教師などと関われる機会が少なくとっつきにくいいため、中々意見を伝えられないことも多い。
	校則を守らない人について	規則を守っていない人は、守るようにしてほしい。 みんなが守れるようになって欲しい
友達との関係性・学校の雰囲気などについて	学校やクラス的环境について	学校を自由で安心して生活できる環境にする
	いじめや悪口、陰口等について	いじめをなくす 悪口やいじめなどが無く、充実した友達関係になって欲しい。
	多様性について	多様性を尊重されてほしい 多様性を認める社会になってほしい
	学校やクラスでの人間関係について	みんな仲良くし相手を気遣うべきだと思う。 合理的配慮をしてほしい
	友だちについて	友達が欲しい 自分が一人でも友達と一緒にいても安心したい

## ■調査結果:学校生活について

学校生活の中で変わってほしいところを見つけたとき、「友達や家族には言うが、学校には伝えない」が多数

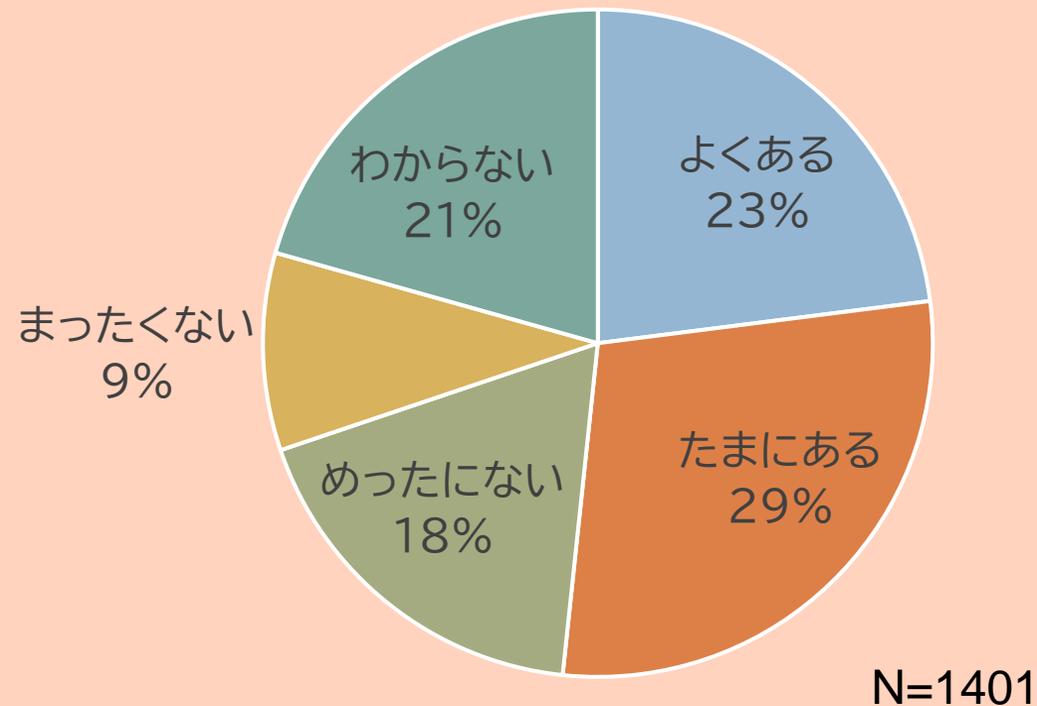
Q12 学校生活の中で変わってほしいところを見つけた時、学校に伝えますか？(複数回答)

	1811
友達や家族には言うが、学校には伝えない	591
話を受け止めてもらえない・あしらわれると思うから、伝えない	272
どうでもいいから、伝えない	268
先生に面倒(めんどう)だと思われ、態度を変えられそうだから、伝えない	253
話を受け止めてもらえると思うから、伝える	146
別の人伝えそうだから、伝えない	129
話を受け止めてもらえない・話をきちんと聞いてくれないと思うけど、伝える	101
その他	51

## ■調査結果:教育格差について

**教育格差を感じたことがある子ども(よくある・たまにある)は約半数**

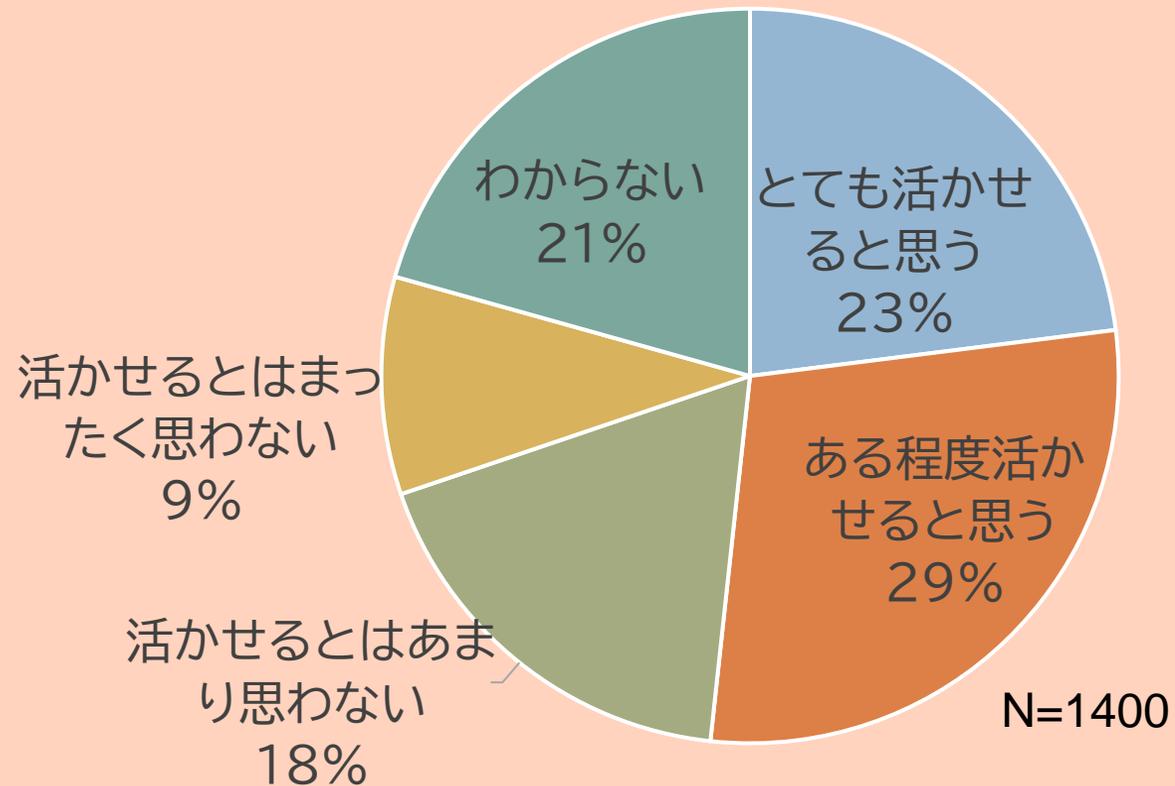
Q13 家庭環境や住んでいる地域によって、学べる内容など教育に違いがあって格差を感じる  
ことがありますか？(単数回答)



## ■調査結果:教育格差について

学校で学んだことが将来に生かせると思う(とても活かせると思う・ある程度活かせると思う)子どもは約半数

Q14 あなたが、あなたの学校の教育で学んだことは、自分の将来に活かせると思いますか？  
(単数回答)



## ■調査結果:教育格差について

教育格差を感じたことがない・わからないという回答が最多だが、家庭の収入の差や地域・学校の差によって実感したという回答も多く寄せられた。

解決方法については、国による支援、先生や生徒への、差別をなくすための教育、学校や地域を超えた情報共有、様々な子どものニーズにこたえることなどが挙げられた。

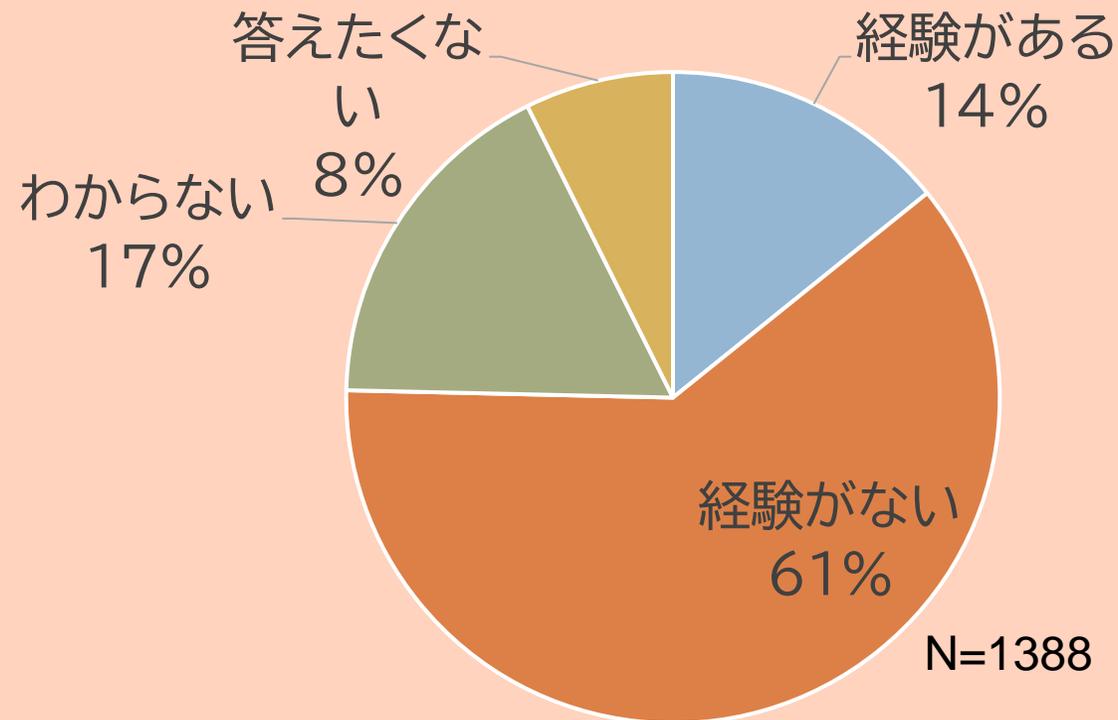
Q15 教育格差を感じた瞬間について、具体的に教えてください。また、その教育格差はどのようにすれば解決できると思いますか？(自由回答)

	カテゴリー	主な内容
教育格差を感じる瞬間	感じたことはない	感じたことはない(143)/ わからない(73)
	家庭の収入の差	家庭の収入が低いことで塾・進学・習い事・留学・挑戦・部活・様々な経験ができない、諦めた。(88) 部屋が狭い・ない等勉強できる環境がない(5)/ 教材や教育関連のものが購入できない(7)
	地域の差	都会には大学・高校・塾・習い事・施設・情報の選択肢が多かったり沢山あるが都会以外には少ない、ない。都会以外には様々な選択肢が少ないため通学時間がかかって勉強に集中できない。(47) 情報・環境・教材・対応・授業内容が地域で違うことで差が出る(5)フリースクールがない地域がある。(2)
	先生や学校の差	先生が態度を変える:優秀・裕福・先生の意見に賛同する生徒、性別によって優遇して差別する。学校毎に違う:公立と私立で学習内容や機会や修学旅行先、プログラムが違う。学校によって差がある。特別支援学級と普通学級で差がある。(73)
	その他	親の理解の有無、校則の違いがある。(4) アフリカなど他国の子どもが教育を受けられていない(4)
教育格差をどのように解決できると思うか	国が支援をする	経済的に厳しい家庭には教育支援をする。一律に高校や大学の無償化をする。フリースクールの無償化。教材や学費の支援、留学費用の補助、情報の提供、塾に通いたい子どもへの支援など。
	先生への教育	先生の質の向上のために教育する。先生が差別をした場合はやめさせる。先生への研修、良い先生を育てる。
	生徒、学校全体への教育	生徒同士が差別をしないよう、仲良くなるよう教育をする。関係者全員が仲良くなるようにする。
	学校や地域を超えた情報共有	学校や地域を超えて良いところを学びあう、差が出ないように情報共有する。一律に学ぶようにする。 生徒への向き合い方を学びあう。教育格差について学校や先生がまず学ぶ。
	様々な子どものニーズにこたえる	生徒一人ひとりに寄り添えるような仕組みをつくる。 オンラインでも生徒が学べるようにする。

## ■調査結果:教育格差について

**約14%の子どもは学校や家庭などで虐待を受け、学習意欲がなくなった**

Q16 今までに、学校や家庭などで心理的、身体的あるいは性的な虐待を受けたことで、勉強に集中できず、学ぶ意欲がなくなってしまう経験をしたことはありましたか？(単数回答)



## ■調査結果:子どもの心と体の健康について

今のおとな・社会に対して感じていることについて、「もっと理解してほしい・話を聞いてほしい」という意見が多くよせられた

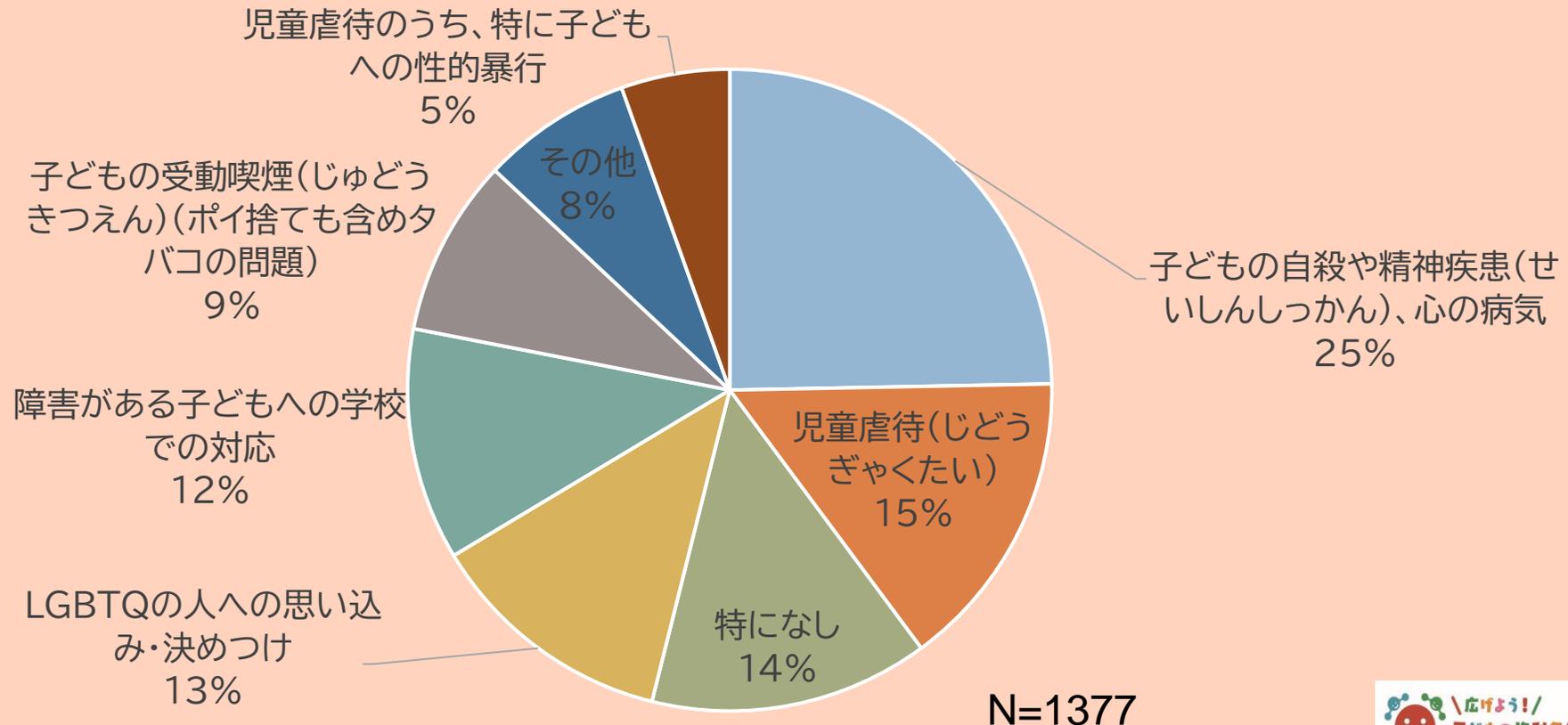
Q17 子どもの心と体の健康について、あなたが今のおとな・社会に対して感じていることを教えてください。(自由回答)

意見	人数	%	意見	人数	%
特になし	272	30.09	自由にさせてほしい	13	1.44
わからない	72	7.96	経済的(お金関係)に困っている	13	1.44
もっと理解してほしい・話を聞いてほしい	64	7.08	インターネット・SNS(主にマイナス面)	13	1.44
子どもを大切にしていない	62	6.86	遊び・遊び場について	11	1.22
おとなへの全体的な批判	49	5.42	たばこについて	9	1.00
健康(こころ・からだ) ルッキズムについて	41	4.54	おとなにもっと余裕を	9	1.00
政治について	39	4.31	いじめ	9	1.00
学校関係	37	4.09	差別的	6	0.66
虐待について	29	3.21	ジェンダー不理解	6	0.66
おとなは大変そう	27	2.99	コロナ対策	4	0.44
ポジティブな意見	24	2.65	ルール・マナー違反	3	0.33
子どもを理解していない	24	2.65	その他の意見	8	0.88
考えが古い・価値観の押し付け	23	2.54			
現在や将来への不安	19	2.10			
聞いてもらえない・理解してもらえない・言いづらい	18	1.99			

## ■調査結果:子どもの心と体の健康について

心と体の健康について、政治家に解決してほしいと思う社会問題で、一番多かったのは、**「子どもの自殺や精神疾患、心の問題」**

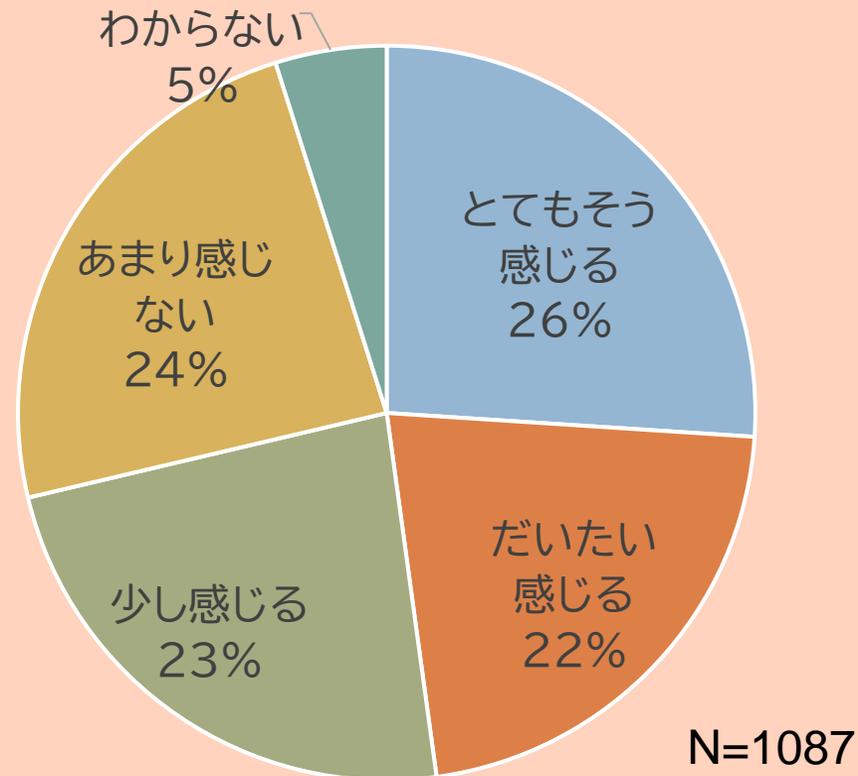
Q18 子どもの心と体の健康について今、日本の政治家に解決してほしいと思う社会問題を選んでください。(単数回答)



N=1377

## ■調査結果:子どもの心と体の健康について 社会問題が身近に感じるかは、子どもによって感じ方がばらけた

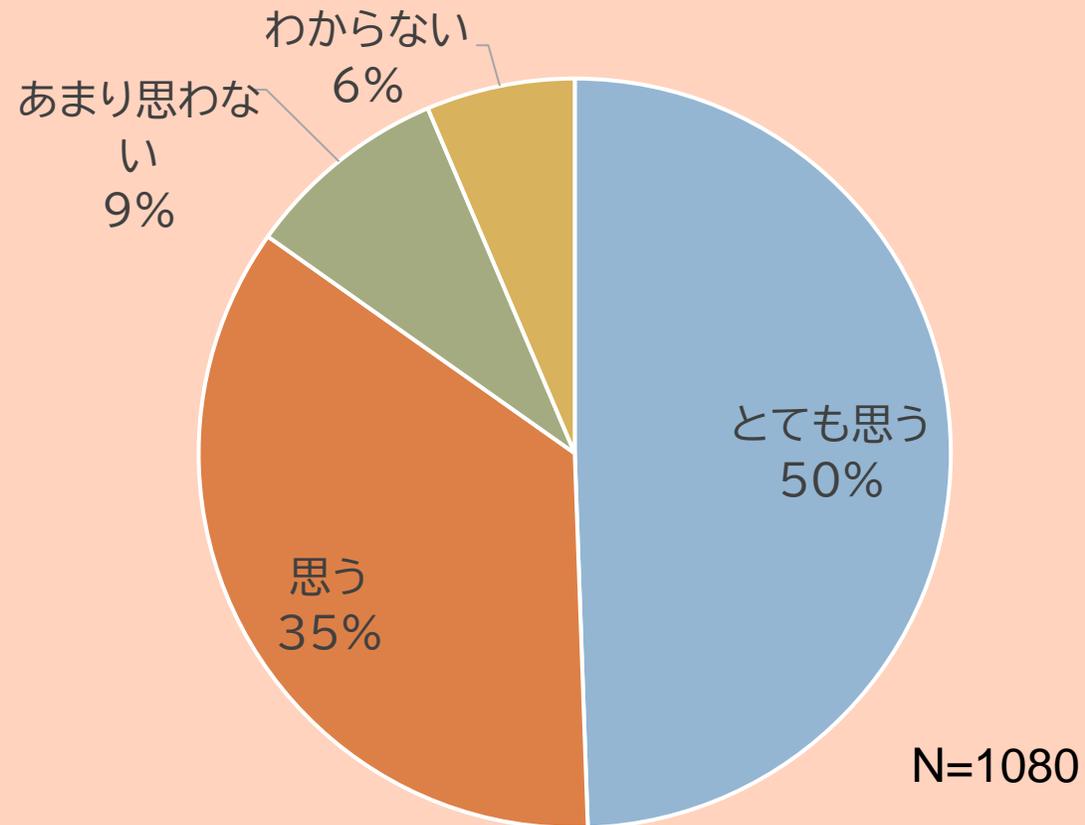
Q19 Q18で回答した内容について質問です。その社会問題は、あなたにとって身近に感じていることですか？(SA)



## ■調査結果:子どもの心と体の健康について

子どもの意見を聴きながら子どもとおとなが社会問題を解決した方がいいと思う子どもが85%

Q20 Q18で回答した社会問題について、子どもの意見を聴きながら子どもとおとなが一緒になって解決していった方がいいと思いますか。(SA)

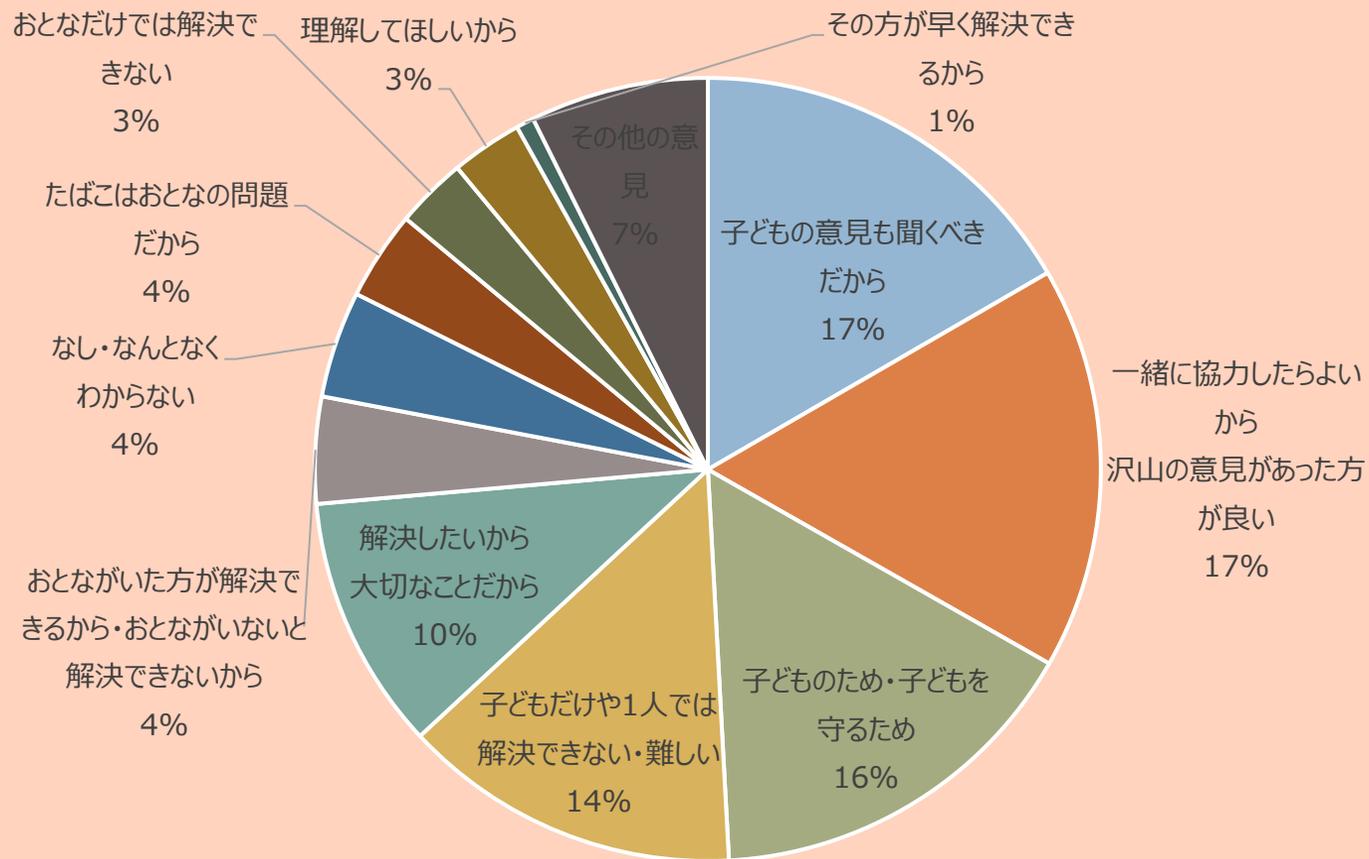


## ■調査結果:子どもの心と体の健康について

子どもの意見を聴きながら子どもとおとなが社会問題を解決した方がいいと思う理由として、「子どもの意見も聞くべき」、「たくさんの意見があった方がいい」、「子どもを守るため」、「子どもだけでは解決が難しいから」などの理由が挙げられた。

Q21 Q20でそのように答えた理由を教えてください。(自由回答)

「とても思う」と答えた人の理由



# ■結果まとめ

## • 子どもの権利について

- **子どもの権利の内容について知っているのは約4割の子どもだけ。聞いたことがない子どもも24%。**
- 「オンブズパーソン」や「コミッショナー」を希望する子どもが約6割。わからないという子どもも約3割。
- 子どもに関する政府の取り組みの中で、**特にお金を使ってほしいことは、「学校にかかるお金の無償化」。**
- **子どもの権利や子ども政策について、「学校の授業で学ぶ機会が欲しい」という声**が特に多く寄せられた。

## • 子どもの意見表明について

- 悩みを相談したり、助けを求めたりする方法について、「**知っているが使おうと思ったことはない**」子どもが約半数。
- **おとなに意見を伝えやすい方法として、「アンケート」・「LINE」が最多。「直接話す」も多く、SNSは少なかった。**

## • 学校生活について

- **学校生活の困りごとを相談したい信頼できる人は「友達」が最多次いで「家族」、「クラスの担当の先生」などの身近なおとな。「弁護士」も4番目に多かった。**
- 学校で心配・安心できないと感じることは「**友達との関係性**」が最多、次いで、「**身だしなみに関する学校のルール**」。「**先生との関係性**」「**クラスの雰囲気**」など、人間関係に関することが多かった。

## • 教育格差について

- 教育格差を感じたことがある子どもは約半数。
- **約15%の子どもは学校や家庭などで虐待を受け、学習意欲がなくなった経験がある。**

## • 子どもの心と体の健康について

- **心と体の健康の健康について、政治家に解決してほしいと思う社会問題で、一番多かったのは、「子どもの自殺や精神疾患、心の問題」。**
- **子どもの意見を聴きながら子どもとおとなが社会問題を解決した方がいいと思う子どもが85%。**



＼広げよう！／

子どもの権利条約

キャンペーン